

展示目録

題字 木村千鶴（出羽海部屋行司）

続 阿波の相撲史展

令和二年十二月二十日～令和三年三月二十日（於徳島大学 ガレリア新蔵 展示室）

阿波相撲史ワーカス

ご挨拶

本日は「続 阿波の相撲史展」にご来場いただき、まことにありがとうございます。かつて阿波・徳島（淡路島を含む）は「相撲王国」とよばれるほどに相撲が盛んな地域で、特に江戸時代の徳島藩・蜂須賀公時代には数多くの著名力士を輩出・雇用してきました。また昭和初期頃までは地域単位で相撲集団を有し、地域独自の興行や、東京・大阪力士の大相撲巡業に併せた大規模な相撲興行も行われてきました。

続 阿波の相撲史展

阿波相撲史ワークスは、このような徳島の相撲史に興味と関心を寄せる大学職員や相撲史研究家らが集まり、不定期にフィールドワークや文献調査、情報交換などをを行い、それらの成果の発表・展示紹介等を通じて、地域社会貢献と生涯学習機会の向上を目指す、非営利任意団体です。徳島大学ガレリア新蔵での展示企画は、平成29年に開催した「阿波の相撲史展」に続き、今回が二回目です。皆様にお楽しみいただけますことを、ワークスメンバー一同、心より願っております。

令和2年12月吉日 阿波相撲史ワークス

力士
雲早山の系譜

神山町・上勝町・那賀町の境界付近にある雲早山（くもそうやま）は、大相撲力士のしこ名（くもさやま）としても知られています。雲早山を名乗った力士たち7人を紹介します。

三ツノ海
茂八の
軌跡

幕末、天保末期から嘉永年間に、徳島出身の三ツノ海という力士が、近畿圏を中心に修行後、江戸に出て、幕下で好成績を挙げていました。今まで知られていなかった江戸時代の名力士を、本展で紹介します。

かつては「相撲王国」とまで称された阿波徳島、江戸時代は蜂須賀公が有力な力士を藩のお抱えにして、地域の特産品などを大いにPRしたそうです。江戸時代から現代まで、徳島ゆかりの力士を一覧表にして本展でご紹介します。

徳島ゆかりの
大相撲力士
一覧

徳島
アマチュア
力士
強豪伝

草相撲が明治神宮大会により全国アマチュア大会になったのは、大正末期のこと。その当時の名力士や、昭和の戦後に活躍したアマチュア強豪の力士たちを、本展にてご紹介します。

展示会場見取図

出口

アンケート机

ガラスケース G4

関取改名録展示
ガラスケース G3

北壁展示パネル R2

東壁展示パネル E1～E6

展示パネル P6-1～P6-4

展示パネル P5-1～P5-4

液晶ディスプレー

展示パネル P4-1～P4-4

展示パネル P3-1～P3-4

北壁展示パネル R1

古文書展示
ガラスケース G2

展示パネル P2-1～P2-4

展示パネル P1-1～P1-4

入口

記名簿・配布物机

書籍展示
ガラスケース G1

南ガラス展示ウォール

展示パネル(フロア P1~P6)内容一覧

パネルID		備考	テーマ
P1-1A	ご挨拶		
P1-1B	謝辞・参考文献		
P1-2A	本展の概要		
P1-2B	前回(阿波の相撲史展 2017)の展示概要		
P1-3A	初代 雲早山 森之助		力士 雲早山の系譜
P1-3B		錦絵写真	
P1-4A	二代 雲早山 森之助	金剛傳から肖像	
P1-4B	京都相撲の雲早山(雲早山 平吉、雲早山 竜太郎)		
P2-1A	雲早山 鉄之助		
P2-1B		錦絵写真	
P2-2A	不知火 諾右衛門-剣山 谷右衛門(初代)取組図	錦絵3枚(歌川 国貞)	
P2-2B	秀の山 雷五郎(立神 雲右衛門)、秀ノ山-剣山(初代)取組図	錦絵2点(歌川 国貞、芳房)	
P2-3A	東之方力士鏡 嘉永5年2月(剣山、小柳、雲早山)		
P2-3B	ペリー来航と大相撲力士(小柳 常吉)	錦絵(歌川 国貞)ほか	
P2-4A	雲早山 最十郎		
P2-4B	雲早山 吉蔵		
P3-1A	十一代 湊由良右衛門(雲早山 鉄之助)		
P3-1B	福沢諭吉と湊部屋		
P3-2A	湊門人:鶴ヶ滝 岩之助、綾瀬川 山左衛門、不知火 光右衛門	錦絵2点(歌川 国貞、国輝)	三ツノ海茂八の軌跡
P3-2B	湊門人:不知火 光右衛門、不知火-鬼面山 取組図	錦絵2点(歌川 芳房、芳盛)	
P3-3A	湊門人:初代 梅ヶ谷 藤太郎	錦絵(蜂須賀 國明)	
P3-3B	二代 梅ヶ谷 藤太郎、常陸山 谷右衛門	錦絵2点(野村 美邦、玉波)	
P3-4A	改正相撲高砂稽古場之図	錦絵3枚(蜂須賀 國明)	
P3-4B	湊没後の大坂相撲紛擾		
P4-1A	三ツノ海 茂八の軌跡 概要		
P4-1B	徳島新聞連載記事 三ツノ海		
P4-2	阿波力士 三ツノ海茂八の軌跡をたどる	「相撲趣味」誌掲載論文	
P4-3	三ツノ海 番付一覧表		
P4-4A	三ツノ海 江戸大相撲勝負星取記録		徳島アマチュア力士強豪伝
P4-4B	三ツノ海とその後の入幕力士との取組		
P5-1A	三ツノ海の対戦力士:荒鹿 幸助(真鶴 政吉)	錦絵(歌川 豊国)	
P5-1B	荒鹿-陣幕 取組図	錦絵3枚(歌川 豊国)	
P5-2A	三ツノ海の対戦力士:黒緘 卷之助(陣幕 久五郎)	錦絵写真	
P5-2B	陣幕 久五郎	錦絵3枚(歌川 国輝)	
P5-3A	陣幕 久五郎	錦絵ほか	
P5-3B	巡業番付(明治5~7年頃、福岡・飯塚)、同(明治9年、鳥取・米子)	大阪頭取 陣幕 久五郎	
P5-4A	三ツノ海の対戦力士:藤ノ越 三五郎(鹿島灘 鰐右衛門)	錦絵	
P5-4B	三ツノ海の対戦力士:帆ノ山(飛龍)、立田野(湊川)、島ノ浦(桑ノ弓)		
P6-1A	笠井(末廣) 治六		
P6-1B			
P6-2A	明治神宮競技大会解説		徳島アマチュア力士強豪伝
P6-2B	末廣 萬治(半治)		
P6-3A	徳島アマチュア相撲史概要(全国大会優勝者など)		
P6-3B	小川 守男、小川 篤治		
P6-4A	平野 孝行、平野 照		
P6-4B	岡田 義行(秀登)		

展示パネル(壁面)内容一覧

パネルID		備考	テーマ
R1	御瀧山(大山) 勇助	紹介パネル	徳島ゆかりの大相撲力士一覧
	大童山文五郎土俵入之図(東洲斎写楽原画)	錦絵(アダチ版)	
	初代 剣山谷右衛門	錦絵3点(歌川国貞、豊国)	
	勢見山 兵右衛門	錦絵(勝川春好)	
	徳島ゆかりの大相撲力士一覧(江戸時代:安永~慶応年間)	一覧表パネル	
	陣幕 嶋之助	錦絵(勝川春亭)	
	鬼面山 与一右衛門(勝川春亭原画)	ガラス絵(複製)	
	相生 松五郎	錦絵(歌川国貞)	
R2	小柳 常吉(千草山)、二代 剣山谷右衛門、大鳴門 瀧右衛門(司天龍)	錦絵3点(歌川国輝、蜂須賀國明)	徳島ゆかりの大相撲力士一覧
	徳島ゆかりの大相撲力士一覧(明治~令和年間)	一覧表パネル	
	大阪番付(明治2年3月)、徳島番付(同年8月、二軒屋)	十一代 湊由良右衛門	
	京都番付(明治4年3月)、同(明治16年8月)	梅ヶ谷 藤太郎、雲早山竜太郎	
	東京番付(明治26年5月)、同(明治27年5月)	雲早山吉蔵	
	東京番付(明治6年11月、墨消し)、巡業番付(明治6年11月、桑名春日社)	高砂 浦五郎、小柳常吉	
	改正組番付(明治8年10月、名古屋)、東京大阪立合番付(明治14年12月)	高砂 浦五郎、梅ヶ谷 藤太郎、響矢 熊十郎(剣山谷右衛門)	
	巡業番付(明治15年6月)、東京番付(明治16年5月)	梅ヶ谷 藤太郎、剣山 熊十郎(谷右衛門)	
E1A	江戸番付(文化10年11月)、同(文政5年10月)	初代 雲早山森之助	力士 雲早山の系譜(E1Bを除く)
E1B	堺(宿院)東西番付(文政5年か6年)	末廣 半治	
E2A	江戸番付(天保12年閏正月)、同(天保12年11月)	二代 雲早山森之助	
E2B	巡業番付(天保8年8月、山形・寒河江?)、江戸番付(天保13年10月)	(立久恵 滝之助、頂清五郎)	
E3A	江戸番付(弘化5年正月)、同(嘉永5年11月)	雲早山鉄之助、三ツノ海 茂八	
E3B	勧進大相撲土俵入之図(弘化5年正月、雲早山鉄之助新入幕)	錦絵(歌川豊国)	
E4A	巡業番付(弘化5年2月、中根新田)、同(嘉永3年、山形・米沢)	雲早山鉄之助	
E4B	巡業番付(嘉永5年9月、桑名春日社)、同(嘉永5年9月、伊勢?)	雲早山鉄之助	
E5A	中相撲巡業番付(嘉永元年4月、奈良・南城戸町)、巡業番付(安政2年、埼玉・越谷大澤)	三ツノ海 茂八	
E5B	大阪番付東方(嘉永7年5月)、同(安政2年7月)	雲早山鉄之助、三ツノ海 茂八	
E5C	大阪番付東西(文久元年7月)	十一代 湊由良右衛門	
E6A	巡業番付(萬延元年9月、桑名春日社)、同(文久2年10月、名古屋・七ツ寺御院)	雲早山茂十郎	
E6B	大阪番付東方(慶応元年5月)、同西方(慶応2年5月)	雲早山最十郎	

南ガラス展示ウォール

延遼館天覧相撲横綱之図(梅ヶ谷 藤太郎、明治17年)	錦絵(尾形月耕)	力士 雲早山の系譜
御濱延遼館於テ天覧角力之図(梅ヶ谷 藤太郎、明治17年)	錦絵(鮮中舎国梅)	
清酒「梅ヶ谷」広告(大正15年頃?)	ポスター(長門屋本店)	
清酒「梅ヶ谷」容器(昭和初期?)	有田焼?(梅ヶ谷酒造)	
東京大角力常設館開館記念絵葉書セット(明治42年)ほか	写真絵葉書	
勧進大相撲之図(嘉永6年11月場所)	錦絵3枚(歌川豊国)	
勧進大相撲土俵入之図(嘉永4年2月場所)	錦絵3枚(歌川芳宗)	
勧進大角力取組之図(嘉永4年2月または11月場所)	錦絵3枚(歌川芳虎)	
雲早山鉄之助 独り立ち錦絵(子持ち二引 化粧廻し姿)、直筆短冊「関取とひとにいはるる暑さかな」	錦絵(歌川豊国)	
勧進大相撲土俵入之図(歌川國芳原画)	陶板(大鵬薬品工業 創立15周年記念、大塚オーミ陶業信楽工場製造)	
印鑑(覚 相撲會所頭取之印)文久2年	印象と覚書き(肥後相撲頭取中)	
頭取免許 安政5年	吉田追風から湊由良右衛門忠直	
化粧廻し 秀湊	東邦レーヨン	徳島アマチュア力士強豪伝
本場所座布団 秀湊		
明荷 秀湊		
平野 忠(秀湊)、平野 孝行(大学横綱)、平野 照(高校横綱)	写真パネル	
横綱への道(平野 孝行、「学生相撲百年への歩み」から)	文章パネル	
化粧廻し 末廣		
じこ名は末廣(富登 千恵子)	随筆パネル	
明荷 末廣		

ガラスケース展示内容一覧

ケースID		備考
G1	阿波相撲史(徳島県相撲連盟 編、1971)	
	続 阿波相撲史(乾 武彦 著、1976)	
	相撲新書(上子 司介(延貴)著、1899)	
	福翁自伝(福沢 諭吉 著、1899)	
	相撲趣味 186号(2019年10月)	「阿波力士 三ツノ海茂八の軌跡をたどる」収載
	陣幕久五郎通高事跡(野口 勝一/陣幕会 編、復刻版 1984)	
	ふるさと佐那河内(佐那河内村ふるさとづくり協議会 編、1979)	
	学生相撲百年への歩み(西日本学生相撲連盟 編、1982)	
G2	関口流免許(目録、文政10年11月)	西原 鉄之助 15歳当時
	証状(安政4年4月)	十一代 湊 由良右衛門が肥後の相撲宗家・吉田 追風の一門に加えられた証状
	起請文(文政4年4月)	湊が吉田家に対してしたためた起請文
	相撲伝授(文政4年4月)	吉田家から湊に贈られた巻物
G3	諸国相撲閣取改名附(嘉永元年、萬右衛門)	
	大日本力士部家派改名附(明治28年、佐々木由治郎)	
G4	明治神宮外苑(競技場)絵葉書セット(大正13年)	
	関西大学体育会相撲部創立100周年記念誌(平成4年 刊行)	平野孝行選手の活躍を伝える記事(昭和37年)
	東日本相撲連盟五十年史(昭和50年 刊行)	平野照選手の優勝回顧
	時津洋 手形サイン色紙	
	時津洋 大相撲カード3枚	
	時津洋 日本酒瓶2本	

参考文献 (#は書籍展示有)

阿波相撲史(徳島県相撲連盟 編、1971)、# 続 阿波相撲史(乾 武彦 著、1976)、
陣幕久五郎通高事跡(野口勝一/陣幕会 編、復刻版 1984)、相撲起頭(三河屋治右衛門 編、1838-54)、# 相撲新書(上子 司介(延貴)著、1899)、# 福翁自伝(福沢 諭吉 著、1899)、# ふるさと佐那河内(佐那河内村ふるさとづくり協議会 編、1979)、# 学生相撲百年への歩み(西日本学生相撲連盟 編、1982)、# 東日本相撲連盟五十年史(東日本学生相撲連盟 編、1975)、# 関西大学体育会相撲部創部100周年記念誌(1992)、大相撲人物大事典(「相撲」編集部 編、2001)、日本相撲史(上)(酒井 忠正 著、1956)

謝 辞

本展開催にあたり、公益財団法人徳島新聞社会文化事業団から、阿波相撲史ワークスに助成を賜りました。また以下の方々ならびに施設・団体から、資料や情報のご提供、展示準備や設営等に、賛助ご協力を頂きました。ここに深く感謝申し上げます。

(敬称略) 岩本 緋天、岡田 和昭、岡田 寿恵、岡田 義行、葛城市相撲館けはや座、神山 雅孝、木村 千鶴、小池 謙一、小西 真衣、坂下 美宙、佐藤 采、相撲趣味の会、徳島県立文書館、徳島新聞社、長岡 隆夫、西原 アサコ、平野 幸、富登 千恵子、本田 章勝

しこ名は末廣

昨年、阿波相撲史展があった。

主催者のK先生と話す機会があり父が、「末廣」というしこ名を持つていたことを話した。

大正末期から昭和初期にかけて阿波相撲は全盛期で、父は名東、名西両郡を抑えていたと聞いている。中央では明治神宮外苑に競技場ができ、大正十三年十月三十日から五日間第一回目の競技大会が開催された。現在の国体に当たる体育大会であった。この時父は、相撲の部で県代表として大会に出場している。銅メダルを貰ったということだったが、家の中にメダルを見た記憶がない。弟によると、「自分が中学生の時銅のメダルをそつと持ち出して、友達に見せているうちになくなつた。メダルにはたしかに大正十三年十月とあつた」と言う。弟が見たと話すメダルの様子から「銅メダル」というのは金、銀、銅のメダルではなく、全員に配られた記念のメダルだったのだろうと思われた。

それにして、父が相撲に強かつたことは確かなようだ。大会の後、「末廣」の化粧まわしをお披露目までしたそうだから。

そんな話をするとK先生は是非その化粧まわしが見たいと言う。

さつそく実家へ行き探すことになったが、実家の後継をしていてる姪は「そんなもの見たこともない。あるなら蔵の二階にある筈だ。昔は毎年虫干ししていた場所だ」と言う。許しを得て自分で探したが見出せなかつた。諦めかけた頃、西の納屋行李らしきものがあると言う連絡が来た。

飛んで行き納屋の奥の隅に積み上げられた箱の中に混じつて行李があるので見つけた。行李は鼠の糞と埃にまみれて、外見は見るも哀れに傷んでおり、中身の程が案じられた。恐るおそる蓋を開けると、薄い綿布団に覆われた化粧まわしが出てきた。金箔の「末廣」のしこ名にも、五条の橋の上の牛若丸や弁慶の因柄にも何の遜色もなかつた。行李の底に敷いてあった新聞紙は昭和六十一年八月十六日土曜日の日付けであつた。遠い昔、虫干しをして私が収めたことをすっかり忘れてしまつていたのだ。

化粧まわしを広げたまま、私の中の古いフィルムがからからと回り出した。

「『ごつとい』が逃げたぞ!」農繁期のある日、叫び声が在所中に響いた。野に出ていた男衆は「それ」とばかり、仕事を放り出して「『ごつとい』を追つた。「『ごつとい』とは村に一頭しか認可されていない胤牛のことである。戦前戦後の農家は、ほとんどの家に農耕のためと子牛を生産させため牝牛を飼っていた。産まれた子牛は数少ない農家の收入源で、初年に子牛の競り市があつた。

唯一、私の家では雄牛「『ごつとい』」を飼っていた。逃げ出したのは我が家のが家の「『ごつとい』」であつた。

巨牛だ。

大きな角を振り上げ、野を駆け、暴れ狂う「『ごつとい』」を前に男衆はなすすべもなくただ後を追うばかりであつた。そのうち方向転換した巨牛は道路を横切り、私の家の下の蜜柑畑に飛び込んできた。その時だつた。父が巨牛の前に大手を広げて勇敢と立つたのだ。すると不思議なことに巨牛は、ピタッと足を止め、父に鼻木をつかまれて静かになつた。見守っていた人々から歓声とどよめきが起きた。巨牛はおずおずと牛舎に連れ戻された。その光景を私は家から見ていた。父が「『ごつとい』」を捕らえた時、私の父への思いが、がらりと変わつた。

父は中国戦線で負傷し、からうじて帰国したが、長く病院に入つていて実家に帰つたのは、妻の葬儀の日であつた。幼すぎて父を知らない私にとつて、初めて「この人が父か」と知つた日でもあつた。その後、家に帰つたものの、父はあまり働かなかつた。かわりに祖母が働き通しだつたのを見ていた私は、父をどこか軽ろんじるような所があつた。

そんな時におこつた「『ごつとい』」事件である。思えば若い頃の父は「『ごつとい』」の如き巨体と四つに組む精神力のある人だつたのだ。戦争に行き弾し、担架で壕へ運ばれる途中、再び敵の攻撃をうけ、戦友から担架ごと見捨てられた。戦争のむなしさを知つた父は生きる力と「末廣」のしこ名をどこかに失つてしまつたのであろう。しかし、ひらりと身をかわし「『ごつとい』」の鼻木をつかんだ父はかつての「末廣」のしこ名にふさわしい堂々たる姿であつた。

立秋の午後。まだ見たことのない化粧まわしをつけた父の姿を想像しながら、三分の一世紀の歳月を経て再会した牛若弁慶主従に、八月の風を通した。



和暦(西暦)	じご名(よみ)	改名歴	部屋	初土俵	最高位	最優勝所	出身地	備考
安永 (1772~1781)	1 横ノ尾 香津之助 (さきのお)			宝永年間?	大闘		諱就有	元禄10年 (1697) 阿波力士として参む番頭
	2 大瀬 穂右衛門 (おおなだ)				大闘		?	看板大闘、明和元年 (1764) 10月のみお抱え
	3 一ツ守 喜多 (ひとつもり)	早波→一ツ守		安永元年 (1772) 10月	東幕下2	天明2年 (1782) 2月	徳島?	
	4 由良海 五郎治 (ゆらのうみ)	江戸崎→由良海		安永2年 (1773) 10月	東幕下11	天明2年 (1782) 2月	淡路島?	
	5 雄山 岩之助 (ゆざん)			安永3年 (1774) 10月	東三段目5	天明2年 (1782) 2月	兵庫?	
	6 虹ヶ嶺 袖右衛門 (にじがたけ)	虹ヶ嶺→虹ヶ嶺		安永3年 (1774) 10月	大闘	天明3年 (1783) 11月	奈良?	
	7 吉ノ島 鳥右衛門 (としまがしま)	小野川/玉垣/雪		安永4年 (1775) 10月	東前頭1	天明7年 (1787) 11月	徳島 (松茂)	寛政4年没、墓所は徳島市無縫寺焼香庵跡
	8 鶴ヶ嶺 脇右衛門 (つるがたき)	芦ノ庭→鶴ヶ嶺		安永4年 (1775) 10月	東前頭3	寛政3年 (1791) 11月	徳島	
	9 鴎尾山 弓兵衛 (あおやま)			安永6年 (1777) 4月	東序ノ口1	安永7年 (1788) 11月	徳島?	
	10 加治ヶ嶺 力右衛門 (かじがはま)	加治ヶ嶺→楳ヶ嶺	障幕/田子ノ浦	安永6年 (1777) 4月	東前頭4	寛政6年 (1794) 3月	鹿児島	阿州頃書の12場所中は「加治ヶ嶺」のち薩州頃書
	11 立岩 半太夫 (たいてわ)			安永6年 (1777) 10月	東幕下7	安永9年 (1788) 10月	徳島	墓所はかつて徳島市無縫寺焼香庵跡にあった
	12 満ヶ崎 良助 (うざがさき)	力石→満ヶ崎		安永6年 (1777) 10月	東幕下8	天明6年 (1786) 3月	徳島?	天明4年 (1784) 3月から満ヶ崎
	13 和田原 喜四郎 (わだがはら)	追手風		安永6年 (1777) 10月	小鉢	寛政11年 (1799) 11月	静岡	
	14 絹島 滅左衛門 (えしまがた)	堂ノ浦→絹島潟		安永7年 (1778) 3月	大闘	安永9年 (1788) 10月	徳島 (阿波町)	看板大闘。墓碑は阿波市阿波町北原
	15 黒星 勝右衛門 (くろさき)			安永7年 (1778) 3月	東三段目12	天明4年 (1784) 3月	徳島?	
	16 岩ヶ谷 猪太夫 (いわがたに)			安永7年 (1778) 3月	東序ノ口5	安永7年 (1778) 3月	徳島?	1場所のみ
	17 大曾 鳥喜 (おおさき)			安永7年 (1778) 3月	東序ノ口7	安永7年 (1778) 3月	徳島?	1場所のみ
	18 卷綱 源蔵 (まきぎぬ)			安永7年 (1778) 3月	東序二段9	天明4年 (1784) 3月	徳島?	
	19 鳥山 音三郎 (ねじやま)			安永8年 (1779) 10月	東三段目10	天明4年 (1786) 3月	徳島?	
	20 荒石 植松 (奥古軒門) (あらいし)			安永9年 (1780) 3月	東幕下2	天明3年 (1783) 10月	徳島?	
	21 白川 幸助 (しらかわ)			安永9年 (1780) 10月	東三段目5	安永10年 (1781) 3月	?	阿州頃書は安永10年 (1781) 3月
	22 沙崎 喜代蔵 (しづかさき)			安永9年 (1780) 10月	東序二段3	天明2年 (1782) 10月	徳島?	
	23 甲山 木曾太 (かぶとやま)			安永9年 (1780) 10月	東序ノ口12	天明元年 (1781) 10月	岐阜?	1場所のみ
	24 鬼面山 谷五郎 (きめいざん)			安永10年 (1781) 3月	東小鉢	寛政3年 (1791) 3月	京都	1場所のみ
	25 告ノ瀬 十治郎 (じまのうみ)			天明元年 (1781) 10月	東三段目14	天明元年 (1781) 10月	?	天明2年 (1782) 10月から阿州頃書
	26 告ノ瀬 太良吉 (じまのうら)			天明元年 (1781) 10月	東序ノ口14	天明元年 (1781) 10月	徳島?	1場所のみ
	27 奥尾哥 文吉 (まつおさき)			天明元年 (1781) 10月	東序二段6	天明2年 (1782) 2月	徳島?	
	28 小堀屋 改吉 (こまつしま)			天明元年 (1781) 10月	東序ノロ8	天明2年 (1782) 2月	徳島?	
	29 横ノ尾 喜兵衛 (さきのお)			天明元年 (1781) 10月	東序ノロ13	天明元年 (1781) 10月	徳島?	1場所のみ
	30 犬ヶ崎 助治郎 (もひさき)			天明元年 (1781) 10月	東序ノロ20	天明2年 (1782) 2月	徳島?	
	31 早波 庄治郎 (はやわたり)			天明2年 (1782) 2月	西序二段4	天明2年 (1782) 2月	?	1場所のみ
	32 白鳥 小太郎 (しらしま)			天明2年 (1782) 10月	西序二段4	天明2年 (1782) 10月	?	1場所のみ
	33 山ノ井 実(伊)三郎 (やまとひ)			天明3年 (1783) 3月	東幕下10	天明8年 (1788) 11月	徳島?	
	34 稲川 馬之助 (いながわ)	御手洗→稻川		天明3年 (1783) 3月	東幕下7	寛政3年 (1791) 11月	徳島?	
	35 二所ヶ嶺 平助 (にょしゃがたけ)			天明3年 (1783) 3月	東序二段18	天明4年 (1784) 10月	?	阿州頃書は天明4年 (1784) 3月まで
	36 桑川 吉三郎 (やながわ)			天明3年 (1783) 3月	東序ノロ6	天明4年 (1783) 3月	?	1場所のみ
	37 鶴ヶ島 吉平 (たねがしま)			天明4年 (1784) 3月	東幕下4	天明4年 (1784) 3月	鹿児島?	1場所のみ
	38 畠ヶ谷 幸太郎 (こうりがたに)			天明4年 (1784) 3月	東三段目6	天明4年 (1784) 3月	?	1場所のみ
	39 美崎 岩右衛門 (あおいさき)			天明4年 (1784) 3月	東序二段2	天明4年 (1784) 3月	?	1場所のみ
	40 三立山 文吉 (みたてやま)	墨ノ井→岩ヶ洞→三立山		天明6年 (1786) 3月	東幕下5	寛政3年 (1797) 3月	徳島?	
	41 大坂 稲右衛門 (おおいしかり)			天明7年 (1787) 11月	東三段目4	天明7年 (1787) 11月	京都?	1場所のみ
	42 杉ノ尾 采蔵 (すぎのね)	牧ノ尾→杉ノ尾		天明8年 (1788) 4月	東三段目1	寛政3年 (1791) 11月	徳島?	
	43 勢見山 兵右衛門 (せいみさん)	小野川/友綱		天明8年 (1788) 4月	東前頭2	寛政11年 (1799) 11月	徳島	墓所は徳島市無縫寺焼香庵跡
	44 和田原 渡(万)太夫 (わだのうみ)			天明8年 (1788) 3月	東三段目18	寛政3年 (1791) 4月	?	阿波頃書は寛政2年3月から
	45 鬼面山 与一右衛門 (きめんざん)	岩ヶ根→高根山→大岩→鬼面山	小野川/勝ノ浦/境川	寛政元年 (1789) 11月	閑鑑	文化10年 (1818) 10月	千葉	引退後年寄勝ノ浦
	46 織鶴 羽右衛門 (ゆづるは)	末廣→獅子ヶ嶺→繪鶴羽	小野川/祠山	寛政元年 (1789) 11月	東前頭1	文化8年 (1808) 3月	江戸	引退後年寄祠山。墓所は徳島市無縫寺焼香庵跡
	47 障幕 塙之助 (じんまく)	龍門→障幕→霧尾川	障幕/藤島	寛政2年 (1790) 3月	大闘	享和2年 (1802) 11月	愛媛	阿州頃書は寛政7年3月から8年3月までの3場所
	48 藤田瀬 浪之助 (とうのうみ)			寛政3年 (1791) 11月	東幕下11	寛政3年 (1791) 11月	徳島?	1場所のみ
	49 幸渡り 伊勢之介 (はやわたり)			寛政3年 (1791) 11月	東序二段25	寛政3年 (1791) 11月	?	1場所のみ
	50 井筒 利吉 (いづづ)			寛政5年 (1793) 10月	東三段目2	寛政8年 (1796) 3月	徳島?	
	51 錦岩 漢之助 (かがみいわ)	鴻ヶ嶺→錦岩	伊勢ノ浜/小野川/雷	寛政6年 (1794) 11月	小鉢	文化12年 (1815) 11月	岐阜?	
	52 織綱 力彌 (ひのどり)	鵜島→増山→織綱	外ヶ浜/玉垣	寛政6年 (1794) 11月	大闘	文政5年 (1822) 閏正月	広島	阿州頃書は寛政12年4月から文化11年11月まで21場所
	53 御遍山 祐助 (ゆうきさき)	大山→御遍山	小野川/祠山	寛政9年 (1797) 10月	東三段目11	寛政12年 (1800) 4月	徳島 (上板)	文化10年没、墓所は上板の柿原家
	54 若鶴 岩吉 (わかつき)			寛政9年 (1797) 10月	東三段目24	寛政9年 (1797) 10月	徳島?	江戸は1場所のみ
	55 真帆港 寶七 (まほのうみ)			寛政9年 (1797) 10月	東序二段17	寛政9年 (1797) 10月	徳島	江戸は1場所のみ。墓所は徳島市無縫寺焼香庵跡
	56 収津萬 房五郎 (あきしじま)			寛政12年 (1799) 4月	東三段目14	享和元年 (1801) 3月	徳島?	
	57 名山 岩右衛門 (めいざん)			寛政12年 (1799) 4月	東幕下14	文化7年 (1809) 10月	徳島?	阿州頃書は享和3年10月まで3場所
	58 龍岩 龍之助 (ふもといわ)			寛政12年 (1799) 4月	東幕下18	享和3年 (1808) 10月	徳島?	
	59 駒ヶ谷 万吉 (こまがたに)			寛政12年 (1799) 4月	東三段目14	寛政12年 (1799) 4月	徳島?	1場所のみ
	60 四海浪 龍之助 (りょうのうみ)			寛政12年 (1799) 4月	東三段目13	享和元年 (1801) 3月	徳島?	
	61 鬼ノ瀬 通藏 (わしのうみ)			享和元年 (1801) 3月	東三段目22	享和元年 (1801) 3月	徳島?	1場所のみ
	62 荒已し 要八 (あらいし)			享和元年 (1801) 3月	東序二段22	享和元年 (1801) 3月	徳島?	1場所のみ
	63 渡ノ瀬 七之助 (はののなみ)			享和元年 (1801) 3月	東序二段8	享和元年 (1803) 3月	徳島?	
	64 猿屋 文蔵 (いわがわ)			享和元年 (1801) 3月	西序二段11	享和2年 (1802) 11月	徳島?	
	65 鶴ヶ嶺 東洋 (こしがはま)	尾岸灘→根津ヶ岡→越ヶ嶺		享和元年 (1801) 3月	東幕下5	文化3年 (1803) 10月	徳島?	
	66 大池 浩吉 (おおのうき)			享和2年 (1802) 2月	西序二段24	享和2年 (1802) 2月	徳島?	1場所のみ
	67 初生の? 文太郎 (みよの? こうせいの?)			享和2年 (1802) 11月	東三段目32	享和3年 (1803) 10月	徳島?	阿波頃書は享和3年10月のみ
	68 立神 猪右衛門 (たつがみ)	渋川→楳ヶ嶺→立神	小野川	文化元年 (1803) 10月	閑鑑	文政3年 (1820) 3月	福岡 (北九州)	阿州頃書は文化4年11月から最終場所まで22場所
	69 雲平山 緑之助 (くわいさま)	小夜ヶ嶺→鼎→雲平山	勢見山/渓/勝ノ浦	文化4年 (1807) 11月	小鉢	文政6年 (1823) 10月	熊本 (天草)	阿州頃書は文化4年11月から最終場所まで27場所
	70 朝鳳 猪之助 (あさあらし)			文化4年 (1807) 11月	東幕下17	文化5年 (1808) 3月	徳島?	
	71 夢見山 兵右衛門 (せいみさん)	万力→戸田川→夢見山	勢見山/勝ノ浦/玉垣	文化4年 (1807) 11月	西前頭2	文政13年 (1830) 2月	山梨	
	72 吉ノ川 吉五郎 (よしひがわ)			文化5年 (1808) 3月	東序ノロ2	文化5年 (1809) 2月	徳島?	
	73 ニツ引 緑之助 (ふとづき)			文化5年 (1808) 10月	東三段目26	文化5年 (1809) 2月	徳島?	
	74 魚浪 劣五郎 (そぞろなみ)	殿→魚浪 (?)		文化5年 (1808) 10月	東三段目2	文化11年 (1813) 11月	徳島	墓碑は吉野川市山川町
	75 竹破 清貞 (たけぱく)			文化5年 (1808) 10月	東幕下11	文化10年 (1813) 正月	九州?	阿州頃書は文化9年11月から
	76 見晴シ 兼次 (みはらし)			文化8年 (1811) 11月	東三段目22	文政5年 (1822) 閏正月	淡路島?	
	77 鈴ヶ峯 松五郎 (すくみね)	鈴→鈴ヶ峯→鶴ヶ峯		文化8年 (1811) 11月	大闘	文化9年 (1812) 11月	九州?	阿州頃書は文化9年11月のみ、場所後に急逝
	78 織綱 寶之助 (ゆづるは)	見晴→柏山→千草山→鶴ヶ峯	小野川/祠山	文化9年 (1812) 4月	東前頭2	文政6年 (1823) 10月	淡路島 (洲本)	
	79 伊勢浦 稲右衛門 (い							

徳島ゆかりの大相撲力士一覧
(明治以降)

和暦(西暦)	しこ名(よみ)	改名歴	部屋	初土俵	最高位	最終場所	出身地	備考
明治(1868~1912)	129 大鷦鷯右衛門 (おおなると)	司天龍→大鷦鷯	小野川/玉垣/雷	明治12年(1879)1月	大関	明治24年(1891)1月	淡路島 (津名)	大阪相撲出身、引退後年寄八角
	130 剣山 谷右衛門 (つるぎさん)	小車→響矢→剣山	猪名川/雷	明治16年(1883)5月	大関	明治25年(1892)6月	徳島 (山川)	大阪相撲出身、引退後年寄武藏川
	131 韶矢 春吉 (ひびきや)	矢車→韶矢	猪名川/雷	明治16年(1883)1月	東前頭6	明治29年(1896)1月	徳島 (石井)	大阪相撲出身
	132 鬼鹿毛 清七 (おにかけ)		華の峰/雷	明治18年(1885)5月	西前頭6	明治35年(1902)5月	徳島市	京都相撲出身、引退後年寄中川
	133 虹ヶ嶽 晴右衛門 (にじがたけ)		小野川/雷	明治21年(1888)5月	西十両3	明治27年(1894)1月	徳島 (小松島)	
	134 雲早山 吉蔵 (くもさやま)	藤ノ森→雲早山	雷	明治22年(1889)5月	東幕下2	明治28年(1895)5月	徳島	大阪相撲出身
	135 三ヶ峯 源五郎 (みつがみね)			明治22年(1889)5月	西幕下17	明治24年(1892)5月	徳島	
	136 荻ノ森 和介 (はぎのもり)			明治23年(1890)1月	東十両5	明治28年(1895)1月	徳島	
	137 淡路洋 八十八 (あわじなだ)			明治23年(1890)5月	東十両6	明治43年(1911)6月	淡路島?	
	138 鳩門龍 近五郎 (なるどりゅう)	大谷→鳩門龍		明治24年(1891)5月	西十両3	明治33年(1901)5月	徳島 (勝浦?)	
	139 鴨綠江 渡右衛門 (おうりょくこう)	熊響→鴨綠江	武藏川	明治25年(1892)1月	西幕下4	大正5年(1916)1月	徳島 (三好)	日清・日露戦争従軍、引退後年寄武藏川
	140 猪頭山 駒右衛門 (のどうやま)	若響→猪頭山	武藏川	明治30年(1897)5月	東幕下19	明治39年(1907)5月	徳島?	
	141 蟻龍 左文二 (ばんりゅう)	響洋→蟻龍	武藏川	明治32年(1899)5月	東幕下11	明治39年(1907)1月	徳島?	
	142 鬼鹿毛 利之助 (おにかけ)	鬼見喜→鷦鷯門洋→鬼鹿毛	中川	明治38年(1905)1月	西前頭5	大正9年(1920)1月	徳島 (鴨島)	引退後年寄中川
	143 剣山 宇蔵 (つるぎさん)	井筒		明治41年(1908)5月	東幕下34	明治43年(1911)6月	徳島?	
	144 吉ノ川 百二郎 (よしのがわ)	若松		明治41年(1908)5月	西幕下12	大正2年(1913)5月	徳島?	
	145 東雲 衛蔵 (しののめ)	雷		明治45年(1912)5月	東小結	大正14年(1925)5月	徳島 (勝浦)	
	146 國ケ岩 卵八 (くにがいわ)	小野川/草風/入間川		大正3年(1914)5月	東幕内附出	大正8年(1933)1月	徳島 (美馬)	京都相撲大関。引退後年寄乳山→福川
	147 吉野岩 留吉 (よしのいわ)	吉ノ石→吉ノ岩→吉野岩	出羽海	大正15年(1926)1月	西前頭4	昭和10年(1935)5月	徳島 (阿南)	
	148 大劍 次郎 (おおつるぎ)		出羽海	昭和2年(1927)1月	東三段目36	昭和7年(1932)1月	徳島 (美馬)	
	149 津峯山 政雄 (つみねさん)		出羽海	昭和2年(1927)1月	西十両4	昭和13年(1938)5月	徳島 (阿南)	
	150 海光山 大五郎 (かいこうざん)	八坂漬→海光山	二所関/桑川/二所関	昭和2年(1927)10月	西前頭2	昭和14年(1939)1月	徳島 (海部)	引退後年寄枝川→高田川
	151 長尾 功 (ながお)		出羽海	昭和8年(1933)1月	東序二段37	昭和9年(1934)5月	徳島?	
	152 阿波錦 銀之丞 (あわにしき)	若剣→阿波錦	桑川	昭和7年(1934)5月	東序二段7	昭和10年(1935)5月	徳島 (麻植)	
	153 玉登 政雄 (たまのぼり)		二所関	昭和10年(1935)1月	西幕下26	昭和18年(1943)5月	徳島 (撫養)	
	154 豊嶋 雅雄 (とよしま)	西村→豊嶋	出羽海	昭和13年(1938)1月	西関脇	昭和19年(1944)11月	徳島 (美馬)	番付頭書は授津。東京大空襲により現役中死去
	155 竹田 二男 (たけだ)		出羽海	昭和13年(1938)5月	東序二段5附出	昭和16年(1941)5月	徳島市	兵役により本所出場は昭和13年5月のみ
	156 二所ノ瀬 一夫 (にしょのうみ)		二所関	昭和14年(1939)1月	東幕下附出	昭和14年(1939)5月	徳島 (鳴門)	關西角力協会の幕内・四海山
	157 松の浪 見 (まつのなみ)		立浪	昭和14年(1939)5月	西序二段51	昭和15年(1940)5月	徳島 (美馬)	
	158 狩野 勝三郎 (かのう)		出羽海	昭和15年(1940)1月	東序二段75	昭和17年(1942)5月	徳島市	
	159 八坂漬 信勝 (やさかはま)		枝川	昭和16年(1941)1月	西三段目4	昭和19年(1944)11月	徳島 (海部)	
	160 田島山 明 (たじまやま)		鏡山	昭和17年(1942)1月	西序二段6	昭和19年(1944)1月	徳島 (小松島)	
	161 前ノ海 通 (まえのうみ)		高砂	昭和17年(1942)1月	幕下格附出	昭和19年(1944)1月	徳島 (三好)	
	162 長岡 史郎 (ながおか)		二所関	昭和17年(1942)5月	西序二段1	昭和20年(1944)11月	徳島 (撫養)	
	163 四國島 守 (しこくじま)		伊勢ヶ浜	昭和18年(1942)1月	西序二段8	昭和19年(1944)11月	徳島 (阿南)	
	164 秀漢 忠 (ひでみなど)	小平野→平野→若置山→秀漢	出羽ノ海	昭和18年(1942)1月	東前頭17	昭和34年(1959)1月	徳島 (板野)	
	165 湯浅 信生 (ゆあさ)		二所関	昭和19年(1944)1月	東序ノロ17	昭和19年(1944)1月	徳島 (板野)	
	166 荒木山 猛 (あらきやま)		立浪	昭和19年(1944)1月	西序二段48	昭和19年(1944)11月	徳島市	
	167 豊ノ里 順次郎 (とよのさと)	谷→豊ノ里	立浪	昭和25年(1950)5月	西幕下3	昭和36年(1961)9月	徳島 (貞光)	
	168 光若 英夫 (みつかわ)	三木→阿州山→光若	花籠	昭和27年(1952)1月	西三段目28	昭和32年(1957)5月	徳島市	
	169 魁ノ島 新八 (たかのしま)		出羽海	昭和27年(1952)5月	東幕下12	昭和35年(1960)3月	徳島 (阿南)	
	170 鏡谷 已徳 (せにたに)		二所関	昭和28年(1953)5月	西序ノロ11	昭和28年(1953)9月	徳島 (美馬)	
	171 石川 登 (いしかわ)		二所関	昭和29年(1954)1月	東序二段55	昭和30年(1955)1月	徳島 (三好)	
	172 鳩門岩 满 (なるといわ)	若鷦鷯→小川→鳩門岩	花籠	昭和29年(1954)1月	西幕下25	昭和32年(1957)1月	徳島 (板野)	
	173 徳ノ島 義則 (とくのしま)	平井→徳ノ島	時津風	昭和29年(1954)1月	西序二段10	昭和31年(1956)5月	徳島 (那賀川)	
	174 一宇錦 忠 (いちゅうにしき)		高砂	昭和30年(1955)1月	西序二段5	昭和30年(1955)9月	徳島 (美馬)	
	175 秀豊 義行 (ひでのぼり)	岡田→秀豊	出羽海	昭和30年(1955)1月	西幕下1	昭和37年(1962)1月	徳島 (板野)	
	176 荒崎山 正 (あらきやま)	永野→美濃錦→美乃錦→荒崎山→新崎山	時津風	昭和30年(1955)5月	東前頭11	昭和38年(1963)5月	徳島市 (豊川頭書) 幕下優勝 (昭和34年11月) + 十両優勝 (昭和35年9月、37年1月)	
	177 石田 嶽 (いしだ)		佐渡ヶ嶽	昭和31年(1956)5月	西序二段97	昭和32年(1957)1月	徳島 (阿南)	
	178 猪王山 邦夫 (いおうさん)	篠原→猪王山	時津風	昭和33年(1958)9月	東幕下82	昭和38年(1963)11月	徳島 (藍住)	
	179 浦乃里 精一 (うらのさと)	里見→浦乃里	浦風	昭和34年(1959)3月	東三段目53	昭和36年(1961)5月	徳島 (鳴門)	
	180 小野山 進 (おのやま)	神野→小野山	三保ヶ関	昭和35年(1960)3月	東幕下51	昭和41年(1966)9月	徳島 (阿南)	
	181 山尾 時男 (やまと)		二所関	昭和38年(1963)1月	東序二段53	昭和38年(1963)5月	徳島 (鳴門)	
	182 細田 韶 (ほそだ)		佐渡ヶ嶽	昭和38年(1963)5月	西序ノロ11	昭和38年(1963)7月	徳島 (三好)	
	183 小松島 豊 (こまつしま)	中川→小松島	片男波	昭和38年(1963)7月	西序二段7	昭和39年(1963)3月	徳島 (小松島)	
	184 阿佐乃海 異 (あさのうみ)	太田→玉翼→阿佐乃海	片男波	昭和38年(1963)9月	東三段目39	昭和44年(1969)3月	徳島 (海部)	
	185 尾崎峰 重信 (おざきみね)		時津風	昭和39年(1964)1月	東幕下51	昭和42年(1967)7月	徳島 (阿南)	
	186 鳴潮 潤 (なるしお)		出羽海	昭和39年(1964)5月	東三段目93	昭和40年(1965)5月	徳島 (鳴門)	
	187 古川 貢 (ふるかわ)		時津風	昭和39年(1964)7月	西序二段37	昭和42年(1967)5月	徳島 (那賀川)	
	188 徳の山 刃二 (とくのやま)	西村→徳の山	伊勢ヶ浜	昭和40年(1965)7月	東三段目47	昭和46年(1971)5月	徳島 (脇町)	
	189 津乃峰 博明 (つみねみの)	安部→津乃峰	時津風	昭和41年(1966)9月	西三段目94	昭和42年(1967)7月	徳島 (阿南)	
	190 海龍洋 謙 (かいりゅうなだ)	小山田→海龍洋	出羽海	昭和45年(1970)1月	東序二段3	昭和47年(1972)3月	徳島 (海部)	
	191 日下 良信 (くさか)		出羽海	昭和46年(1971)11月	西幕下47	昭和52年(1977)3月	徳島 (松茂)	
	192 高越山 伸治 (こうえつさん)	上岡→高越山	出羽海	昭和49年(1974)1月	西三段目50	昭和54年(1979)9月	徳島 (山川)	
	193 奥空 健二 (おくそら)		二子山	昭和49年(1947)3月	西序ノロ11	昭和49年(1947)5月	徳島市	
	194 吉井 旭 (よしあ)		時津風	昭和50年(1975)3月	西序ノロ25	昭和50年(1975)5月	徳島 (阿南)	
	195 玉頸 直 (たまつるぎ)	田村→玉頸	片男波	昭和51年(1976)9月	東序二段29	昭和54年(1979)7月	徳島 (小松島)	
	196 港原 安啓 (こうりゅう)	沢原→港龍	宮城野	昭和52年(1977)3月	東前頭4	昭和63年(1988)1月	徳島 (小松島)	
	197 鶴羽 靖宣 (つるば)		時津風	昭和52年(1977)11月	東序二段84	昭和53年(1978)7月	徳島 (阿南)	
	198 首我部 浩一 (そがべ)		二子山	昭和54年(1979)3月	東序ノロ24	昭和54年(1979)5月	徳島市	
	199 植原 浩 (かじわら)		二子山	昭和54年(1979)3月	東序ノロ13	昭和54年(1979)7月	徳島市	
	200 琴鳴門 正治 (ことなると)	琴大林→琴鳴門	佐渡ヶ嶽	昭和56年(1981)3月	西序ノロ35	昭和56年(1981)11月	徳島 (石井)	
	201 前山 肇 (まえやま)		片男波	昭和59年(1984)3月	西序二段18	昭和62年(1987)5月	徳島 (海部)	
	202 剣岳 岩 (いわがく)	田村→剣峰山→剣岳	宮城野	昭和59年(1984)3月	西十両11	平成7年(1995)5月	徳島市	
	203 鳴門洋 史次 (なるとなだ)	加納→鳴戸洋→鳴門洋	宮城野	昭和60年(1985)3月	西序二段133	昭和61年(1986)9月	徳島 (小松島)	
	204 琴小島 達治 (こじま)	小島→琴小島	佐渡ヶ嶽	昭和60年(1985)3月	西序二段16	平成3年(1991)5月	徳島 (藍住)	
	205 時津洋 宏典 (ときつなだ)	吉岡→時津洋	時津風	昭和60年(1985)3月	東前頭4	平成11年(1999)9月	徳島 (脇町) 幕下優勝 (平成2年7月	

「続 阿波の相撲史展」の情報や展示目録 PDF は下記サイトから。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/ph/faculty/lab0/cmp/seminar/awa-sumo-2021.html>

「阿波の相撲史展（2017）」の情報や展示目録 PDF は下記サイトから。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/ph/faculty/lab0/cmp/seminar/awa-sumo-2017.html>

阿波相撲史ワークス

事務局：〒770-8505 徳島市庄町1-78-1
徳島大学 薬学部 神経病態解析学分野 内
E-mail: awajiro@tokushima-u.ac.jp
(事務局代表：笠原 二郎)